

日本はますます NATO の深みにはまるか？

——不吉な現実が見えている

<https://sputnikglobe.com/20230407/is-japan-plunging-ever-deeper-into-nato-1109200370.html>

April 7, 2023

Greatchain

明け方に夢を見た。電車に乗ってかなり急な山を登っている。頂上に着くと、電車は転車台でぐるっと方向を変え、猛スピードで山を下る。人々は大声をあげるが危険ではなく、ただ着いた所が、誰も知らない初めて見る場所だった——。

この記事は Sputnik International に載り、Sputnik 日本に訳されている。これは我々の予期しなかった不吉な話である。きっと読んでも、何のことか分からないかもしれない。あまりにも非現実的だが、しかし現実の話だからである。我々は自分の住んでいる国について、何か不可解で不明朗なものを感じていた。しかし、もしこれが日本政府のずっと隠していた事実だとしたら、我々は覚悟を決めなければならない。

以下、全体的に要点を抜き書きしながら、説明を試みることにする。

「日本の林芳正外相は、彼の国家が NATO との協力を深めていく時だと確信している。と同時に日本政府は、自由で開かれた国際秩序を保持し強化しながら、リードしていく決意をしている。」(注：SOTN のように、NATO とは、North Atlantic *Terrorist* Organization のことだと言う人もいる。)

「スプートニクは専門家と協議して、いかに、そのような決意と、強化されていくその軍国化によって、NATO の戦略に完全に参加しながら、一方で、アジアにおいては軍事的に中国に直面し、日本の平和憲法との調和を図ることが、可能かどうかを論じた。

日本が NATO に対する永久的な外交的使命を定める

ロシアの高級経済研究所の日本研究専門家：——「日本は国際舞台において、常にアメリカの承認がなければ、新しい提案をしたり、率先して行動するような、独立国家ではない」

(注：これは重要な指摘である。政府は民間の意見に全く耳を貸さず、アメリカ（バイデン）の指導だけを金科玉条として行動している。なぜそのような行動を取るのか不可解だが、そこに我々にとって深刻な意味が隠れている。)

日本研究家：——「アメリカは、いわゆる**極東 NATO** を作ろうと考えたことがあった。…西側軍事同盟の盾の下で、同盟した国家群とアメリカが協力して、ヨーロッパ大陸に焦点を置く。そうすれば、彼らの相互作用によって、もっぱらロシアに狙いを定めることになるということだ。同時に、ホワイトハウスは、もっぱら中国を狙う、それとは別の、極東 NATO を作る計画をもっていた。しかし現時点においては、ロシアと中国の間に明確な違いはない。現在、そのリーダーたちは会見し、軍事的あるいは政治的盟約を結ぶことさえなく、世界で起こっていることについての、彼らの見方と目標は大きく一致していると宣言している。これが、軍事ブロックを2つに分けようとする、NATO の初めの計画が、もはや**今日の現実には合わない理由**だ。そして日本の外相の言ったことは、なんとアメリカの現在のこの目標を反映している。それはロシアと中国の周りに、いわゆる「**アナコンダのループ**」を作ることで、彼らの戦略によれば、この敵の首を絞める縄は、アジア各国をつなぐ鎖となるはずで、いつ何時でも、中国とロシアを攻撃することも、軍事作戦を行うこともできるという。」

かつては、それはただ、ロシアの回りに、NATO 軍事基地と指令センターの輪を、締め付けることとして使われていた。そして戦車部隊を迅速に移動させ、西側軍事同盟の空爆グループを、ヨーロッパ国境にまで押し込むことと考えられていた。

現在では、NATO は、アジアでこの計画を実行する準備をしており、それは中国を封じ込め、必要なら、その軍事的無力化を狙うものである。

(注：ここで「**アナコンダのループ**」という比喩に注目すべきである。それは、あたかも地球上のいくつかの戦略的拠点に、穴をあけて住む巨大なアナコンダのように、いつでも、瞬時に顔を出して作戦行動をする生き物を指している。そこで**日本が最も重要な拠点**となる。そして**日本はすでに、その物の指令に従って行動している**と言っている。日本政府がすでに、高価な兵器をアメリカから購入して戦闘態勢をとり、林外相が1兆円の援助をウクライナに約束したのも、その一環であろう。しかし日本は、**アメリカのお役に立つだけ**であって、自分の利益にはならない。それでもなおそれに従うのは、それだけの利益があるからであろう。)

NATO と日本は、海上とサイバー安全保障問題の、より深いパートナーシップを求めている

「これこそまさに、西側軍事同盟が日本を必要としている理由だ、と軍事アナリスト Igor Korotochenko は言っている。

「NATO の Stoltenberg 長官は、最近、このミッションで東京とソウルを訪れた。そして彼と話し合われた密室での合意は、いま東京で、国際舞台での声明の形で実行されている。」

「したがって、これらの変化の一部として、日本が持っているのは、もはや〈自衛隊〉でなく、増大されたサイズと攻撃能力をもつ、完全な戦闘力である。」

「近い未来、日本はまた、核戦力のクラブに加入する申請をするであろう。」

ヨーロッパから極東まで：NATO は日本に目をつけている

「日本は最初から、国際的紛争の解決の手段としては、永久に戦争を放棄すると言っているが、…東京は、個々の条項については、この国の軍国化の方針を追求するようなコメントしている。」

「日本は 1945 年以來、どこでも戦争をしたことがないが、それは次の問題を投げかける——〈明日の日本の軍隊は、日本のためではなく、アメリカのために、死ぬ用意ができているか?〉ということだ。」

(注：この警告論文の趣旨は、我々のこの政府は、自分の行動の究極の結果を考えようとせず、国民のことをも考えようとしない、ということである。NATO というものが、一般にどう考えられているかについて、参考記事をいくつかあげておく。なおこれらは、時期的にはかなり古く、中国やトルコ (NATO 加盟国) がロシアへの歩み寄りの姿勢を示す前の論文である。しかし重要なことは、NATO とは何かについて、どの論文も本質を取り違えてはいないことである。

「NATO を直ちに終わらせよ——世界を第 3 次大戦に追いやる狂気の機関」

<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/160215.pdf>

「NATO——戦争犯罪人の私的クラブ」

<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/161017.pdf>

「NATO リーダーによるロシア侵略の陰謀：ワルシャワ声明」

<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/160721.pdf>